

【山陰地方消費動向調査（2025年11月調査）】

足元の暮らし向きはわずかに悪化、先行きも悪化見通し

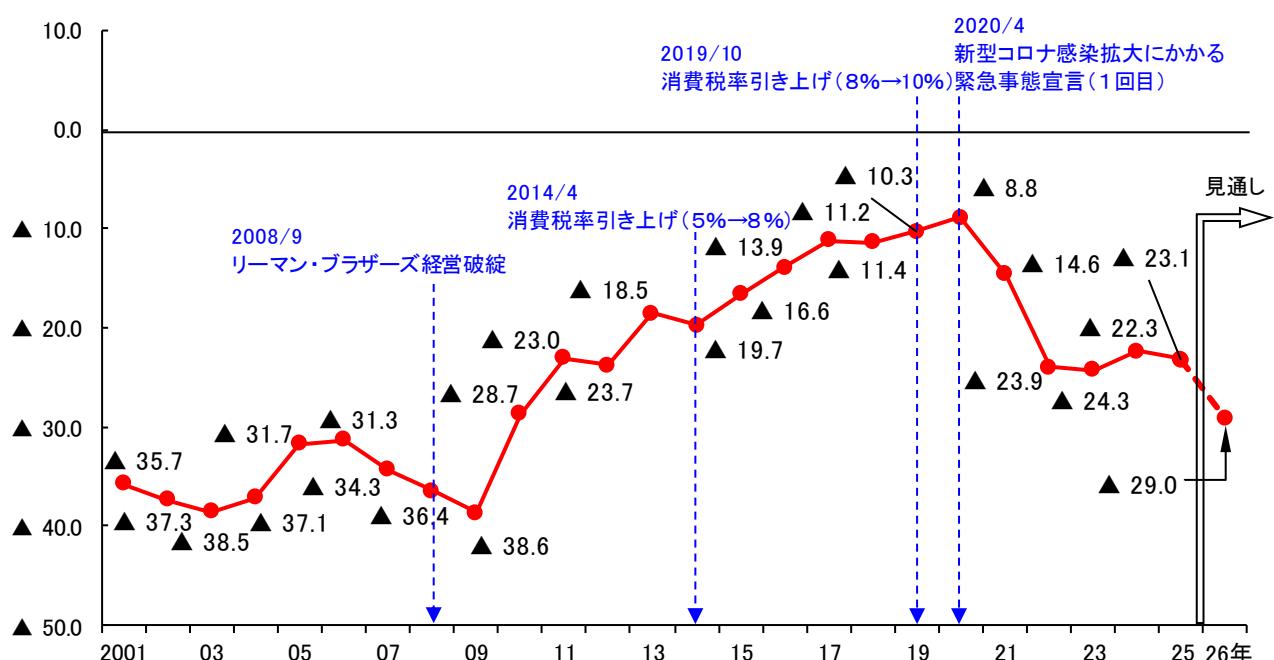
～購買力が徐々に削られ、家計の消費マインドの改善まで至らず～

当行では、山陰地方の消費動向を把握するため、鳥取・島根両県内の消費者を中心にアンケート調査を実施した（調査要領は下記参照）。

足元（2025年11月）の暮らし向きについて尋ねたところ、1年前に比べて「良くなつた」が6.6%、「悪くなつた」が29.7%となり、「暮らし向き判断DI（「良くなつた」割合－「悪くなつた」割合）」は前回調査（▲22.3）比0.8ポイント減の▲23.1と2年ぶりに低下した。

なお、先行き（2026年）の「暮らし向き判断DI」は、5.9ポイント減の▲29.0と低下する見通しとなっている。

図表1.暮らし向き判断DI（「良くなつた」割合－「悪くなつた」割合）の推移



【調査要領】

1. 期間 2025年11月4日～11月18日
2. 対象 鳥取県・島根県の在住者
3. 調査方法 当行営業店等の店頭にてwebアンケートを依頼、または配布した調査票を郵送により回収
4. 回答数 配布数2,480枚、有効回答数512（回収率20.6%）
5. 回答者構成比 10・20代6.1%、30代14.1%、40代25.3%、50代以上54.5%

〔調査結果の概要〕

1. 暮らし向き

○足元（2025年11月）の「暮らし向き判断D I」は、前回調査（▲22.3）比0.8ポイント減の▲23.1と2年ぶりに低下した。先行き（2026年）は▲29.0とリーマン・ショックからの回復途上にあった2010年（▲28.7）に近い水準まで低下する見通しとなっている。

2. 総収入の動向

○「総収入判断D I」は前回調査比0.7ポイント増の14.4と4年連続で上昇した。

3. 消費生活の動向

○「消費支出額判断D I」は、前回調査比8.7ポイント増の64.0と2年連続で上昇した。

○消費生活の水準（満足度）は前回調査に比べて低下した。

4. 今後の家計の重点

○例年と同様に「健康増進」や「貯蓄の充実」などが上位となった。

○「貯蓄の充実」の減少幅が2022年を超える大きさとなるなど、家計が意図せざる支出増加を強いられている様子がうかがわれた。

5. 家計支出の動向

○この1年間で特に支出が増えた費目は「食料・外食費」が最も多く、以下、「水道・光熱費」、「交通費（ガソリン代含む）」など食料品やエネルギー価格の上昇が影響した費目が上位を占めた。一方、特に支出が減った費目のうち、最も回答割合が多かったのは「旅行・レジャー・娯楽費」だった。

○今後1年間で特に支出を増やしたい費目は「旅行・レジャー・娯楽費」が最も多く、以下、「食料・外食費」、「交際費、小遣いなど」など外出型消費にかかる費目が上位を占めた。一方、特に支出を減らしたい費目のうち、最も回答割合が多かったのは「水道・光熱費」だった。

6. 貯蓄動向

○1年前と比べた貯蓄残高について「増加した」が「減少した」を上回った。

○貯蓄残高は『500万円未満』が5割強を占めた。

7. 雇用に対する不安

○年代が上がるにつれて失業・廃業を心配する割合が高くなる傾向がみられた。

8. 「物価高騰による家計状況と対策」について

○家計状況を「極めて厳しい（赤字）」とする回答が全体の2割を占めた。

○ここ3年程度で見直した固定支出の項目として、全体の4割強が「携帯端末契約」や「保険（生損保）契約」を挙げている。

本調査の詳細版については [当行HP「山陰の経済情報」](#) をご覧ください。